

## ポータルによるデジタルコンテンツの展開

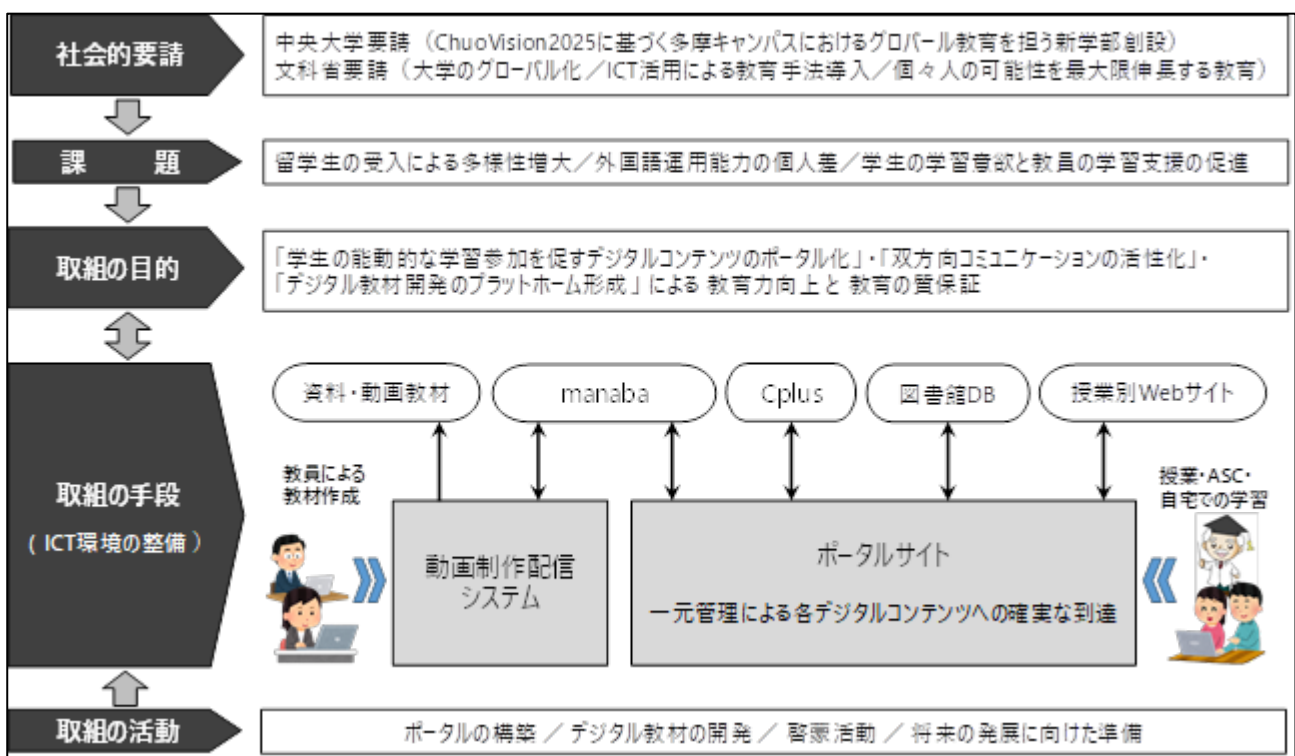
### 【取組概要】

国際経営学部(以下、本学部)は、中央大学中長期事業計画(ChuoVision2025)で構想された二大キャンパス体制に基づき、多摩キャンパスにおけるグローバル人材育成を牽引する期待のもとに新設されました。これは同時に、本学部が、外国人留学生の積極的な受け入れを前提とする大学のグローバル化に向けて、ICTの活用等による新たな教育手法の導入や教育の質保証に関する文部科学省からの要請に応える使命を負ったことにもなっています。

本学部は、高い外国語運用能力を伴う経営学・経済学の専門的素養を育むという方針のもとに、他学部同様の多種多様な入試制度のほかに秋入学者用の日本語能力を問わない外国人留学生入試を実施して、国際舞台で活躍できる潜在的な人材を広く国内外から受け入れる枠組を設けた一方、国籍や母語の観点からした学生の多様性や外国語運用能力の個人差という、グローバル教育を推進するうえで避けられない課題に直面しており、この課題に対応するための教育上の工夫を講じる必要に迫られています。

本学部では、専門必修科目でのチュートリアル科目制の導入、アカデミックサポートセンター(ASC)の設置による学習支援体制の導入、同時アクセス可能な電子書籍・ジャーナルの拡充等、学生の多様性や外国語運用能力の個人差に配慮した体制を整えてきていますが、本構想は、それらの体制に内容面での実効性を持たせるために、電子書籍・ジャーナル、動画等のデジタル教材等を英語による専門教育と学習支援に不可欠な教育リソースと捉え、グローバル教育の質保証の観点から、学生個々人が必要なデジタル教材に効率的に辿り着くことができるICT環境を整備し、学生の主体的な学習意欲の喚起と教員の効果的な学習支援を促して、教育力の向上を目指すものです。[図1参照]

【図1】本取組の概要（イメージ）



## 【取組実績】

本取組の実績については以下のとおりです。

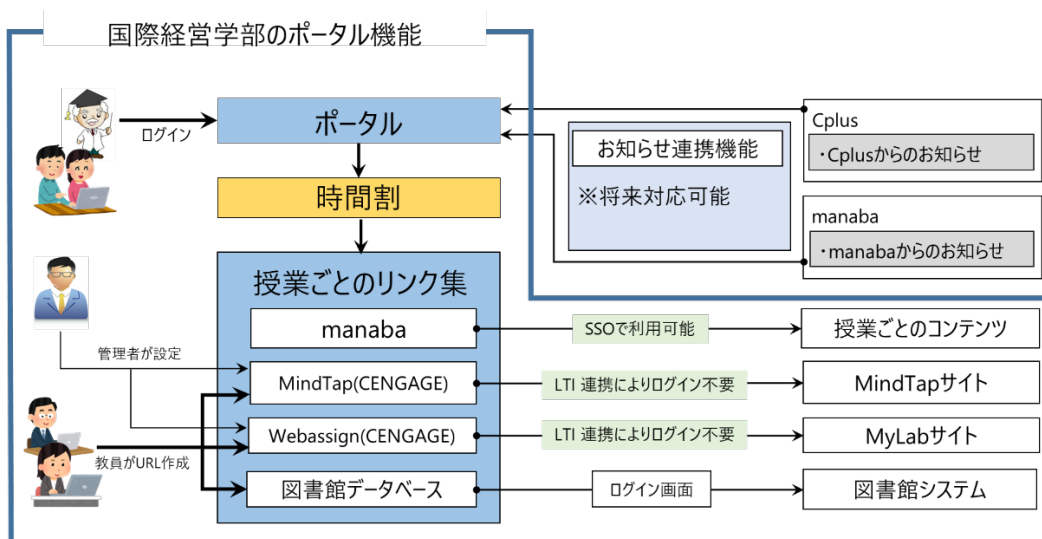
### 1) 学生の能動的な学習参加を促すデジタルコンテンツのポータル化

令和3年3月21日に「Chuo Portal」の開設し、全学的な教育研究支援ツール(Cplus、manaba、図書館データベース等)および本学部固有のデジタル教材 (Cengage Learning 社の MindTap や Webassign の LMS、以下「外部 LMS」という。) といった関連 Web サイト等のデジタルコンテンツに学生が確実に効率的に辿り着けるように、それらを一元的に管理するポータルを構築し連携を行っています。[図2および図3参照]

ポータルと外部 LMS との連携ができる前は、それぞれの外部 LMS に対し、学生自身がユーザー登録を行い、事前に担当教員が発行したコース特有のコードと紐づける必要があり、授業準備の点において負荷の大きいものでありましたが、連携できたことにより、事前にポータルと manaba、外部 LMS が一元化され、学生はユーザー登録を行うことなく、外部 LMS のコンテンツに辿り着くことができるような仕組みとなりました。

今後、国際経営学部カリキュラムにおいて、授業で使用するテキストの選定も含め、上記の外部 LMS 等を多くの科目に導入するなど、統一した教育手法を確立することでより有効なものとなっていくでしょう。

【図2】ポータル機能のイメージ



\* MindTap および Webassign : Cengage 社のテキストを購入すると使用できる教育支援システム。出席管理、宿題管理、成績管理が可能。教科書の本文もダウンロードできる。本学部の「経済学入門」「マイクロ経済学」「経営統計入門」といった本学部の必修科目で使用している。

\* SSO(Single Sign-On) : シングルサインオンは一度のユーザー認証処理によって独立した複数のソフトウェアシステム上のリソースが利用可能になる特性を有している。本学が教職員、学生に付与している統合認証 ID でログインする。

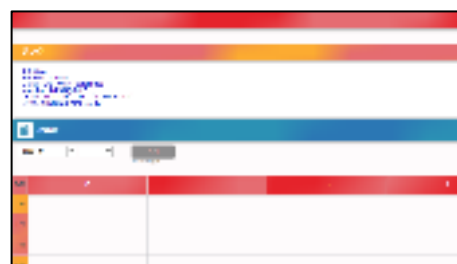
\* LTI (Learning Tools Interoperability) : LMS (Learning Management System) と外部ツールとの連携のための国際標準規格。

【図3】「Chuo Portal」 ログイン画面～画面遷移

「Chuo Portal」 ログイン画面



学生時間割画面



授業ごとのリンク集画面



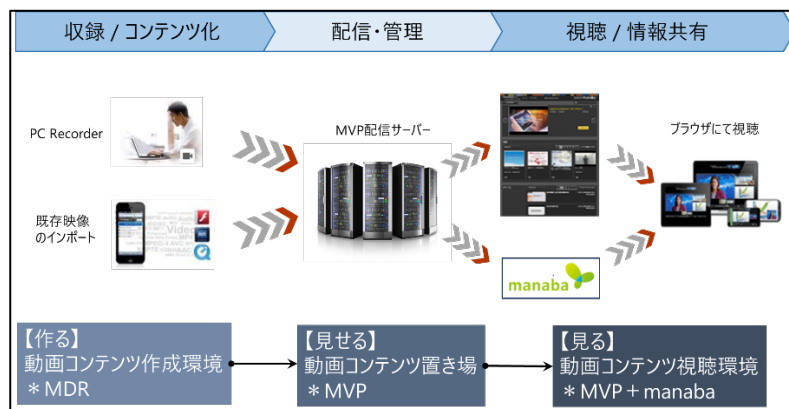
## 2) デジタル教材開発のプラットフォーム形成

グローバル教育に有効な様々なデジタルコンテンツを標準化するポータルを共通の枠組として位置づけ、各教員が学部教育方針に整合するデジタル教材を開発し展開するためのプラットフォームを形成するため、令和2年に動画制作配信システムを導入しました。[図4および図5参照]

令和3年度には、経営学系や経済学系の必修科目および語学を中心としたモデル授業科目を中心に、授業の事前・事後学習のためのデジタル教材（特に映像とPPTスライド等の動画）が制作され、アクティブ・ラーニング、反転授業、オンデマンド学習等、学生の深い学びに活かされています。

また、今回導入したメディアサイトのシステムでは、学生の視聴記録が確認できるようになっているため、作成された動画コンテンツがどの程度視聴されているのか、どの時間帯に視聴が多いのかといった分析が自動的に行われ、次に作成する動画コンテンツへの活用や、学生の学修アプローチの改善といった教員のFD活動としても役立てられています。

【図4】 動画制作配信システム機能のイメージ

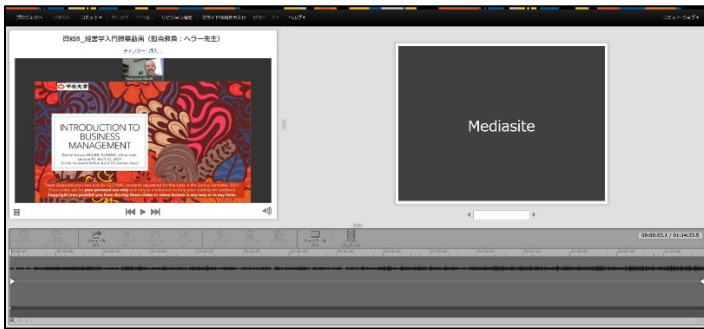


\* MDR : Mediasite Desktop Recorder

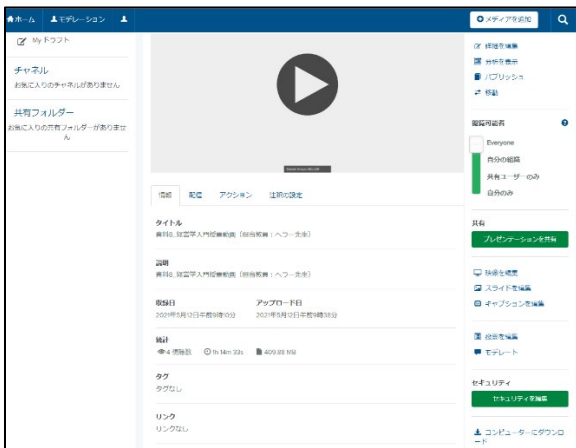
\* MVP : Mediasite Video Platform

【図5】 動画制作配信システム

作る：動画コンテンツ作成環境 (My mediasite)



見せる：動画コンテンツ置き場 (My mediasite)



見る：動画コンテンツ視聴環境 (manaba→mediasite)



学生の視聴記録の確認



以上